

園 評 価 の 結 果 に つ い て

学校法人 北邦学園

認定こども園桜台いちい幼稚園・保育園

平成30年度に実施した認定こども園桜台いちい幼稚園・保育園の自己評価の結果の概要は、次のとおりです。

建学の精神 「自然から学ぶ」

1 本園の教育保育目標

- ◎思いやりのある子
- ◎丈夫で明るい子
- ◎想像力の豊かな子
- ◎やる気のある子

【各学年のねらい(年間)】

- 0歳児 保育教諭との信頼関係を築き、安心した気持ちの中で身近なものに目を向けながら、遊びの楽しさを感じる
- 1歳児 自然や身近なものに興味をもち、保育教諭や友達に自分の気持ちを表現しながら遊ぶことを楽しむ
- 2歳児 様々な遊びに興味をもち、自分なりに気持ちを表現しながら色々な友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる
- 3歳児 様々な遊びに興味をもって取り組む中で、自分なりに気持ちを表現し、いろいろな友達の姿に目を向けながら楽しく遊ぶ
- 4歳児 様々な活動に意欲的に取り組みながら、自分の考えや気持ちを積極的に伝え合い、いろいろな友達と一緒に遊びを進めることを楽しむ
- 5歳児 様々な活動に積極的に取り組む中で、一人ひとりが自分の考えに自信をもって行動し、いろいろな友達と互いに気持ちや考えを認め合いながら、協力して遊びや活動を進めることを楽しむ

自己評価	評価内容
「A」	<ul style="list-style-type: none">・こども達の様子をみると、どの年齢も概ね目指してきた姿には達することができたと感じた。・2歳から幼児にかけてのねらいの中に自分なり、自分の考えという面を記載したが、個々の表現はできているものの、積極性は少し欠けるように感じた。次年度への立案時には、子どもの姿をもう一度考慮し検討をしていきたい。

(A：成果が上かった。B：ある程度成果が上がった。C：もう少し努力が必要。D：改善が必要。)

2 重点的に取り組んだ目標・計画について

(A：成果が上かった。B：ある程度成果が上がった。C：もう少し努力が必要。D：改善が必要。)

課 題	具体的な取組み方法
乳児保育への理解と異年齢交流	<p><昨年度までは、主に幼児の取組み方について学びを深めていたが、その知識などを今年度は乳児への理解として職員全員で深めていけるようにする。></p> <p><これらの活動を通して、保育教諭同士が各年齢の育ちや状況などを細かく学び合う機会となるようにする。></p> <ul style="list-style-type: none"> *身近な園生活の中で、交流の機会をもつ。 *これまでの取組みを活かし、2学期から月に一度は異年齢合同で体操や朝の会などを行う。 *乳児への理解・知識を深められるように、担任配置を交代してみることで、また違った視点からクラスの援助を行い互いに知識を深められるようにする。また、研修などにも積極的に参加する。
<p>【自己評価】</p> <p>「B」</p>	<p>【評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異年齢での交流は、朝の会や散歩などを通して関わる機会は多くもてた。また、先生たちも交流を意識して、保育に取り入れようとする意識は変化した。 ・子どもの姿として、成長の学びを深めることはできたが研修などへ参加して知識を深めることはあまりできなかったため、今後は研修も意識して取り入れていきたい。
職員間の協力体制の強化	<p><これまでの経験の積み重ねから、乳児・幼児部門互いに協力体制は意識しているものの、更に強化できるよう引き続き努力する。></p> <ul style="list-style-type: none"> *園全体として、どのクラスの状況もきちんと把握できるよう、口頭や文書での申し送りはもちろんのこと、内容によっては主任などを通じて伝え合うよう工夫する。 *部門別、全体としての打ち合わせ日など、時間や日程を決めて会議や打ち合わせを行う。
<p>【自己評価】</p> <p>「A」</p>	<p>【評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力体制としては、口頭や文書でも伝え合い、内容を把握し保育の援助を行ってこれたように思う。しかし、職員数が増えたことでスムーズな伝達が難しいと感じることもあるため今後はその部分を意識して進めていきたい。 ・会議や打ち合わせも伝えるべき事項を選別し時間も決めて行うことで、円滑に行うことができた。
保育環境の見直しと整備工夫	<p><昨年は園舎全体が新しくなったことから、今年度は園庭整備に力を注ぎたい。また、園内研究の理解をより深めるためにも、各保育教諭の意識や知識を高めスペースを活かした環境創りをする。></p> <ul style="list-style-type: none"> *砂場や総合遊具周辺の補修を計画している。 *ゆめ工房内や壊れた箇所も計画している。 *遊びの種類を増やすことで、必要な遊具も増やす。 *園名など園内・外の小さなことから整備を行う。 <p><保育室内の細かな工夫から、園内の環境整備も含め、子どもの遊びが広がる意識をもって取り組む。></p> <ul style="list-style-type: none"> *保育室内での遊びの工夫（廃材遊び）がみられている。それを保育教諭同士が気付けるよう、互いの工夫などを伝え合える環境を創る。

	<p>*自由遊びでの各クラスの交流を増やし、子ども同士の関わりも広がるようにする。また、保育教諭同士も様々なクラスの様子に目を向けられるよう促す。</p> <p>*2階の絵本コーナーの環境整備・遊び場所の充実を図る。</p>
<p>【自己評価】</p> <p>「C」</p>	<p>【評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園庭の整備については、グラウンドも土を入れて整備は行い、おままごとセットや園外での遊具（虫取り網・かご・スコップ）などは増やした。しかし、園庭の遊具修理などは全て終えていないため、今後も計画しながら修復を行っていきたい。 ・園内整備は、乳児棟に大きな遊具を新設出来たことは良かった。また、クラスの環境工夫の中でも廃材遊びを行なうコーナーなどを作り、子ども達が遊びの幅を広げるきっかけ作りにはなったように感じた。 ・絵本については、こども達にも浸透し絵本に親しみをもつ様子が見られ取組みとしては成果が感じられるものがあったが、環境整備や遊び場所の充実ということでは、まだまだ次年度はより成果が出るような取組みを
<p>保護者理解と迅速な対応</p>	<p><これまでも努力はしてきたが、新たな課題や対応を考えなければならない部分もあるため、引き続き努力する。></p> <ul style="list-style-type: none"> *保護者参加行事を考慮し、計画をたてる。 *HPブログの定期的な更新を行う。 *保護者との積極的な連携（園への送迎時や電話での会話の充実を図る。）
<p>【自己評価】</p> <p>「C」</p>	<p>【評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マザーズ・ファザーズティチャーを行ったことは、保護者の方からも良い評価をいただいた。ただ、開催時期や時間などは今後検討を必要と感じたため、次年度はそこを活かして計画を進めていきたいと考える。 ・ブログなどは更新頻度を増やしたことで、お手紙などでは伝えきれないいちいの保育を保護者の方に発信出来たように思う。 ・連携という部分では、これまでと変わりなく1つひとつ丁寧に対応出来たようにも思うが、年度末のアンケート結果を考えると、次年度はより考え工夫した対応を課題として繋げていかななくてはならないと感じた。

3 評価項目の達成及び取組み状況について（※各個人の自己評価チェックリストによる）

（A：成果が上かった。B：ある程度成果が上がった。C：もう少し努力が必要。D：改善が必要。）

評価項目	達成及び取組み状況
<p>「教育保育の計画性」について</p> <p>自己評価 「A」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主任を中心として、立案し進めていったことで園全体として見通しを持ち、実践することが出来た。 ・今年度は、いちいの保育や教育保育課程・指導計画を活用しながら保育を行うことができた。 ・昨年度あげていた環境を生かした保育については、まだ保育教諭自身が活かしきれていない様子も見られるため、引き続き取り組んでいきたい。 ・保育の準備に、多くの時間を費やしているものの、効率の良い作業の進め方などを工夫し職員の作業時間も有効に活用できていた。

<p>「教育保育のあり方、幼児への対応」について</p> <p>自己評価 「B」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育保育課程や週案の中で、ねらいを意識していちいの保育を一人ひとりが意識して取り組むことは出来たと感じた。 ・安全面の配慮では、毎日の打ち合わせの中で、危険な場所や気付いたことなどを伝え合い、また紙面でもヒヤリハットや事故報告書を記載することは行っていたが、その後の確認はあまり出来ていなかったため次年度へ活かしたい。
<p>「保育者としての資質と能力」について</p> <p>自己評価 「A」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの意識の高まりや努力する様子は感じられた。そのため、この状態を維持できるよう様々な研鑽は積み、より向上心を保てるよう努力をしていきたい。 ・保育者としての資質や能力をより、高められるよう園運営を行う
<p>「保護者への対応」について</p> <p>自己評価 「C」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お手紙やお知らせなどに訂正や誤りが度々見られた。また、保護者の方に理解していただけるよう、作成に努めたが幼稚園・保育園としてそれぞれの保護者に対して情報発信の仕方や配慮・工夫が十分ではなかったと課題が残る。 ・日々の保護者の方に対し、全職員が丁寧に接することに意識して十分努めた。しかし、不十分な事例もいくつかあり園としての課題が感じられた。 ・上記2点については、大きな反省となり管理職としての意識、職員としての意識を今いちど改め、今後の課題として、努力していく必要がある。 ・保護者の方に記載していただいたアンケートの御意見を率直に受け止め、より開かれた園作りに努める。
<p>「地域の自然や社会との関わり」について</p> <p>自己評価 「B」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・例年実施している、厚別西小学校との関わりについては、毎年、実りある良い交流をさせていただいている。年長になるとこの交流に期待し、年長としての頼もしい姿も見られるため今後もこの様な連携を密に進めていきたい。 ・行事や日々の活動に追われ、地域の方との交流機会をあまり持てなかったため、今後はより地域を知るための努力を行う。
<p>「研修と研究」について</p> <p>自己評価 「A」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に関しては、学園独自で行っている主任研修・新人研修・中堅研修などの他に、札私幼や私保連の研修を自ら希望し、多くの職員が参加できたことは、評価できる。 ・研究に関しては、自園で行っている研究保育を通して、一人ひとりが子どもの姿を見つめ直し、保育への意欲、自身への向上心へと繋がり大きな学びになったと感じる。

4 今後取り組むべき課題

課 題	課題設定の理由
① 乳幼児理解を深め、乳児と幼児の積極的な交流	<ul style="list-style-type: none"> ・認定こども園になって3年経ち、職員全体での乳児保育への理解は深まってきたように感じる。 ・しかし、交流という部分では機会を見つけてお散歩や自由遊びでの交流は持っても、定期的な実施までには至らなかったため、主任を中心として職員間での話し合いの場を設け実施していくよう努める。

<p>② 保育環境整備や環境構成の創意工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな行事や活動内容に応じて、時間調整を行い全職員での意思疎通・協力体制を整えた。また、安定した職員環境のため、細かな「報・連・相」は行えていたと感じる。 ・しかし、その安心した気持ちの緩みから大きなケガや事故に繋がらないよう日々職員が高い意識をもち職務に励むよう、今後も努めていきたい。
<p>③ 保護者理解と連携の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園からの配付物（お便り等）の改善に取り組んできたが、まだ必要な面であるため、さらに改善を重ね保護者からの理解を高めたい。
<p>④ 保育教諭の主体性の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少しずつではあるが、1階・2階の遊具や絵本コーナーなど子どもたちが喜ぶよう ・園外の環境整備は行った。しかし、まだまだ不十分な箇所もあるため今後も継続して創意工夫に努めたい。